

## 宇都宮市立錦小学校 第5学年 児童質問調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の肯定的回答の割合は、県の平均を12.5ポイント上回り、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の肯定的回答の割合は、県の平均を2.5ポイント上回っていた。これらのことから児童が学習や物事に対して、興味関心をもちながら取り組んでいることがうかがえる。「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の肯定的割合は100%だった。今後も学習することの大切さを理解し、勉強が楽しいと感じられるような授業づくりを行っていききたい。

○「人と話すことは楽しい」の肯定的回答の割合は100%、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」の肯定的回答の割合は92.2%であった。これらのことから友達や教師、地域の人とコミュニケーションを取ることを大切さを理解し、進んで関わろうとすることができる児童が多いことがうかがえる。自分の長所を生かし、他の人のためになることをしていこうとする児童が多いので、さらにそのよさを伸ばせるように、支援していききたい。

●「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の肯定的回答の割合は、県の平均を13.1ポイント下回った。また、「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定的回答の割合も、県の平均を13.3ポイント下回った。自分の興味のある事柄などについては進んで取り組んでいるが、自分の苦手な学習やグループ活動に対して消極的な児童が多いことが分かった。今後も自主学習などで学習に関する取組を推奨したり、授業内でグループ活動を積極的に取り入れたりすることによって、自主的に取り組む態度を育成していききたい。

## 宇都宮市立錦小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	多様な考えに触れ、相互に関連付けたり、共通点や相違点を見出したりして互いによさを生かしながら課題解決に取り組む態度の育成。	「クラスの友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定割合は4・5年生ともに県の平均より低かった。自分の考えを話すことに抵抗感がある児童や自分の考えを伝えることはできるが、互いの意見の共通点や相違点を見付けることが難しいと感じている児童もいる。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の「書くこと」において、基本的な作文用紙の使い方や条件に合わせて文章を書くということに課題が見られた。	・作文用紙の使い方の指導 ・書くことへの苦手意識や抵抗感を減らすための取組	・基本的な作文用紙の使い方を繰り返し指導し、段落や句読点を正しく書けるようにする。 ・各教科やその他の活動において、自分の考えを書いたり、友達と書いたものを通して交流したりする機会を設定することで、書くことに慣れたり楽しさを味わえるようにする。